

昨今の話題のひとつに、東シナ海に浮ぶ尖閣諸島と竹島問題がありま
す。それらの島々は、もとは日本固
有の領土と思われていましたが、最
近になって、それは中国のもの、韓
国の所有だと主張されることとなり、
国際的な紛争になってきたわけです。
このことはかなり深刻な問題になっ
ていくことでしょう。

しかし、これらの問題は、いずれ
もかつてのアジア・太平洋戦争の敗
戦にかかわっていることを、充分に
認識すべきでしょう。一九四五年七
月、米、英、中、ソの四カ国によっ
て作成された、ポツダム宣言の無条
件降伏の内実には、日本の領土は、北
海道、本州、四国、九州の四島に限
定され、アメリカのルーズベルト大

統領によって、千島列島はソ聯（ロ
シヤ）に、沖縄諸島
は中国に譲ると提条
され、中国（蒋介石）
が辞退したため、ア
メリカが占有したわ
けです。その後、返
還されたとは名のみ
で、いままなおアメ
リカ軍の駐留が続い
て、その事態はいっ
そう深刻になってい
ることは、周知のと
ころであります。

その点、上に揚げ
たそれぞれを、日本固有の領土とし
て主張することは当然としても、過
去において、そういう事情があった
ということは、日本国民たるもの、
厳粛に認識すべきところでありまし
う。日本国は、過去において、まこ
り属する山砲部隊には、一丁の機関銃
もなく、その大砲は、明治時代に製
造されたもので、飛行機を撃つよう
にはできていません。何発撃っても
あたるとはありませぬ。逆にアメ
リカ空軍の機銃掃射は的確で、多く

日本国の宿業
信楽峻磨

安楽寺寺報
聞光
第65号
報恩講号
2012/11/1
発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
TEL0823-21-7561



とに愚かな戦争をしたものです。今
日における領土問題は、かつての戦
争の「ツケ」によるもので、仏教的
にいえば、まさしく自己の宿業によ
る応報というほかはありません。こ
の戦争によって、日本人は、軍人、
民間人あわせて三百十万人の生命を失
い、中国、アジアで
犠牲となった民衆の
生命は、二十万にお
よぶといわれています。
私はかつて大学生
時代、十八歳にして
徴兵され、北海道の
旭川部隊に入隊しま
した。まもなくアメ
リカ空軍が、私たち
の兵舎をめぐり襲
撃してくるようにな
りましたが、私の所
属する山砲部隊には、一丁の機関銃
もなく、その大砲は、明治時代に製
造されたもので、飛行機を撃つよう
にはできていません。何発撃っても
あたるとはありませぬ。逆にアメ
リカ空軍の機銃掃射は的確で、多く

(二〇一二年・一〇・一六)

安楽寺マンガ通信
その17 信楽めくひ作

前坊守信楽美代子一周忌法要
9月23日、西教寺様を御導師に迎え、安楽寺
前坊守、釋尼華香（信楽美代子）の1周忌法要
をお勤めすることができました。たくさんの皆
様にお参りいただき、誠にありがとうございました。お礼が遅くなりましたが、この場をお借
りいたしまして、御礼申し上げます。来年は、
前坊守の3回忌法要に、前住職西王地唯信と前々
坊守前サハノの25回忌となります。御講師には
今、マスコミに引っ張りだこで、テレビ雑誌に
でておられます、釋徹宗先生にお越し頂くよう
になって
おります。
是非お参
り頂き、
お焼香頂
ければと思います。

第64回聖典講座
日時 11月25日(日) 13:00~
会場 ひかり幼稚園 2階ホール
講師 信楽峻磨安楽寺前住職
会費 1000円
講題 親鸞聖人のお手紙に聞く(その16)
一念仏に生きるものしるし

安楽寺法要案内

| | | |
|----|------|-------------------------------------|
| 一月 | 御正忌 | 日時 1月13日(日) 朝・昼 講師 信楽晃仁住職自動 |
| 二月 | 涅槃会 | 日時 2月16日(土) 朝・昼 講師 湯来 西法寺 吉崎哲真師 |
| 三月 | 彼岸会 | 日時 11月16日(土) 朝・昼 講師 長浜 住蓮寺 豊原俊徳師 |
| 四月 | 花まつり | 日時 4月13日(土) 朝・昼 講師 海岸 西岸寺 長岡正信師 |

※法座のテーマにつきましては、年間カレン
ダーでお知らせいたしますので、日程だ
けご予約ください。

みなさんは
ドラマや映画など
よく見られますか？

邦画、洋画、韓国ドラマなど
色々なものがあつね。

この前、大学で
映像の授業がのびました。

その授業では、
映像の基礎を習ったり、
自分達で小さなドラマを
撮ったりしました。

その時、印象的だったのは、
私達が見ている映像の部分は、
スタッフの努力のほんの10%程で、
私達の見えない90%のスタッフが
どれ程大変な思いをこらしているかが
わかってきました。

この映像では、カメラの動きや
内容がわかるというところがわかり、
映像を見る目がかわりました。

今まで思っていた映像の世界とは全く違
う方の世界に触れる事で、新しい発見が
できましたね。国立劇場にいられたら色々な
見方ができると思います。

これから色々な経験を積んで、
表面からは見えないけれど、その奥にある
大切な事を見るようになる人になりたい
と思います。

聞心

信楽晃仁



長い夏休みが終わり、幼稚園の二学期が始まったある朝、二学期に転園してきたばかりの三歳の

もも組の女の子が泣いていました。慣れない幼稚園で大好きなお母さんと別れて泣いている女の子のそばに、同じもも組の男の子が近づいて、その女の子を慰めているのです。女の子の肩をさすりながら、何か言っている。その声に耳をそばだてると、男の子の声が聞こえてきました。

「みおちゃん。幼稚園ってね、こういう所なんよ。」それを聞いた先生は「え〜!」とびつくり。三歳児とは思えない達観した言葉もそうですが、実はその男の子、ついこの前まで、一日中泣きっぱなしの男の子だったんです。朝のバスに乗っては泣き、おはじまりで泣き、お弁当で泣き、一学期は、一日中泣き続けた有名なその子が、泣いている女の子に、このアドバイスです。先生がびつくりするのも無理はありません。この言

葉はこの子が泣き続けた一学期の幼稚園生活でたどり着いた境地なのか、涙で手に入れた成長といえればよいのでしょうか。

私はこの話を聞いて、

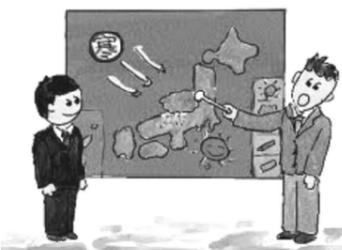
「この男の子の言葉がとっても大切な言葉に聞こえました。『ここは、こういうところ』と現実を見極める知恵があれば、私たちの苦悩も少しは軽くなり、他道を探ることができるようではないかと思うのです。」

三歳の男の子が言う「幼稚園ってね、こんな所なんよ」というのは「幼稚園は、家とは違って、今までお母さんと二人でいたようにはいかないところなんよ。朝から大好きなお母さんとは離れなくちゃならないし、色々お約束はあるし、お部屋に入ったら、カバンを整理したり、靴をそろえたり、あれもこれも自分でしなくちゃならないし。お家にいる時は、全部お母さんがやってくれてのに、どうしてこんなに違うのか。それが悲しくて、僕も君と同じ思いで一学期中ずっと泣いてみたけれども、何にも変わらなくて、泣くだけ

損だったよ。幼稚園ってこんな所と、いうことがわかった僕は、もう一度よく幼稚園を見てみると、今までのお家のように思うようにはならないけれど、慣れてしまえば、ここもそんな悪いところじゃなかったよ。おもちゃもあるし、広い園庭だってある。それになんといつてもお友達がいっぱいいるし、寂しくもないよ。だからここはこういう所と見極めて、早く泣くのをやめて、一緒に遊ぼうよ。そしたら楽しい幼稚園になるよ。」という少し先輩からのアドバイスだったんでしょか。

考えてみれば、苦悩というのは、私はいこう思うけれども、現実はそのではないと言うときに起きる感情です。私の思いと現実の相違が苦しみになっていくのではないかと、思います。この三歳児も、自分の思いや、願うものと現実が違うから泣くのです。

こういう話があります。ある気象予報士が天気図を見て、「あすは晴天になります。」と予報したそうです。ところが



ことはあり得ません。しかし私たちは現実よりも自分の思い込みに足場をおいて「まさか」で塗り固めた人生を送っているのではないのでしょうか。

が次の日は土砂降りの雨。見事にはずれたわけですが、その時にこの気象予報士が「どう見てもこの天気図からは雨になるはずがない。間違っているのは現実だ。」と言ったそうです。よくご法話の中で、坂には三つあるというお話があります。「上り坂、下り坂、そしてまさかと言う坂」だ。この「まさか」というのはなんとでしょう。語源を調べてみると、万葉集に見られ、元々「現実」と「現在」という目の前のことを表す言葉だったようです。それが後に、それも近代になって「よもや」という言葉にかわったそうです。人間が生きてきた歴史の中で、受け入れ難い現実があまりに多く、そうなったのでしょうか。現実が間違いない

聞光

特に老病死の現場で、そうした事が目に付きます。私たちは人はみな年をとり、病気になる、そして死んでいかななくてはならないもの。それも「老少不定」「明日には紅顔あつて、夕べには白骨になる身」の人生だと、誰しも知ってはいますが、それが本当にわかっているかというところはいかないのです。「いつの間にかこんな年をとってしまったんだろ。こんなこともできなくなると、あんなこともできなくなると。」

「なんで私が死ななくちゃならないんだろ。まだこんなに若いのに。」と



「なんで私が死ななくちゃならないんだろ。まだこんなに若いのに。」と

気で、家族みんなが一緒に過ごせること、何となく思い込んで私の思いは、全くの妄想なんです。知ってはいても実はそう思っていないか、私にいつか気づかされる時が必ずやってきます。その時になって本当のことに目を向けず、うかうかと生きてきたことに気づくとしたら、その時必ず後悔が残ると思います。ここはこういう所という、現実をしっかりと見定め、その現実の上しっかりと立つトレーニングをするならば、必ずそこから新しい道が見えてきます。それが仏教の教えです。仏教はこの世を娑婆といふ世界だと言います。その先に向かうべき道を指し示しています。「ここはこんなところなんよ」といふ三歳児の言葉を、我が人生に持ち続け、常に現実を見る言葉として大切にしたいと思えます。

仏事のイロハ

寺の法要と命日

地域によっては「月忌参り」が盛んで、故人の毎月の命日には各家庭にお参りすることがあります。しかしこうした家の門徒さんが皆、お寺に親しみ、お寺の法要に積極的に参りされているかというと、必ずしもそうではなく、最近では、むしろ「家のお仏壇には参るが、お寺には参らない」人が多くなってきたようです。

お寺の法要には知り顔?



中にはお寺で「報恩講」や「永代経」法要が勤まる日にもかかわらず、「お寺の法要には我関せず」とばかりに、「きょうは命日なので家にお参りしてください。」と平気で電話してくる方もいます。お寺で勤められる法要・行事は、住職や一部の門徒さんだけのものではありません。縁あるすべての門信徒さんにお参りし、聞法していただく為に勤められるのです。お寺で法要の勤まる日が、たまにたま故人の命日に重なった方は、さらにいえば、お寺は「聞法の道場」です。数多くの先輩達がご本尊をご安置した本堂で仏法を聞き慶んできました。その慶びを家庭でも身近に味わいたいというところで、お仏壇が安置されるようになりまして。お仏壇を見ていただければ、本堂のミニチュアになっていることがわかれると思います。つまりお寺の本堂が本来的なお念仏の道場です。ですから家のお仏壇だけで仏事をすますのではなく、進んでお寺にお参りください。